

令和 7 年度

保育の実施及び保育環境の充実に関する要望書

令和 7年 9月25日(木)

苫小牧市法人保育園協議会

令和 7年 9月25日

苫小牧市長 金 澤 俊 様

苫小牧市法人保育園協議会
会長 遠 藤 明 代

保育の実施及び保育環境の充実に関する要望書

日頃、苫小牧市法人保育園への要望に対して、お忙しい中時間を割いて頂き、御礼申し上げます。

苫小牧市で、法人保育園が設立されて56年を迎えます。長きに亘り、苫小牧市において、保育園運営を担ってきました。しかし、ここ数年来の出生人口の減少傾向により、各園の 0 歳児 1 歳児 2 歳児の入所児童も比例するように減少して各法人保育園の経営を圧迫し、赤字や保育士の確保難における受け入れ人数の調整や保育士数の補充を控える等、大変運営が難しくなってきました。

児童福祉分野である保育を幼稚園から認定こども園に変更した施設でも受け入れを実施されるようになり、苫小牧市の子どもたちの健やかな発達を支援し、安心して保護者が就労できる環境作りも整ってきたと思います。

認可保育園として、苫小牧市のこども支援や保護者の就労支援を担ってきましたが、ここ近年続く、低年齢児童の入所児童の減少は大変深刻であり、社会福祉事業者として今後も安定した運営を実施するために、法人の自助努力と共に苫小牧市への様々な財政支援等もお願いしつつ、今後もより良い施設運営を目指したいと思います。

今回は、約5項目にわたる苫小牧市への要望をお願いいたしますので、今後ともご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げる次第です。

令和7年度 保育の実施及び保育環境の充実にする要望書

1. 副食費の無償化による子育て支援を実現して下さい。

この度、金澤市長におかれましては、「子どもと真ん中政策」を公約として掲げており、副食費の無償化についても施策の一つとしてご検討いただけるものと期待しておりました。しかしながら、令和7年7月以降、副食費が再び有償化となり、保護者にとっては大きな負担となっております。

今後も、苦小牧市が他市町村に先駆けて「子どもを産み育てるより良い環境作り」として、保護者から期待される子育てしやすい環境づくりを率先して実現して頂けるように、副食費の無償化の実現をお願い申し上げます。

2. 満3歳児から保育料の無償化を実現して下さい。

国の制度では、認定こども園においては年度途中で満3歳を迎えた月から保育料が無償化される一方、認可保育園では3歳児クラスへの進級をもって初めて無償化が適用される仕組みとなっております。

このため、保護者が経済的負担の軽減を求め、年度途中に認定こども園へ転園するケースが増えており、保護者や子どもにとって通いなれた保育園から、余儀なく転園をしなければならなくなり、新たな環境の変化に伴う不安が生じております。

子ども家庭庁が掲げる「切れ目のない支援」の観点からも、継続して保育園で過ごせるように、満3歳児を迎えた子どもたちの保育料無償化について、実現に向けてご対応頂きますようお願い申し上げます。

3. 0歳児から1歳児園児数の定数割れによる施設運営難への補助要請へのお願い

第一次入園調整が発表され、昨年度に引き続き本年度も、各園共に入園者数の大幅な減少が見られ、多くの園が厳しい状況での出発になりました。

各園ともに、途中入園を見込んで少なからず保育士を確保しておりますが、定員に満たない状況が続く園については、施設運営に支障を来しております。

つきましては、当初見込み児童数に基づき、定数割れによる影響を緩和するための補助補

填(四半期精算の1期分相当額)をお考え頂きたいと思います。

4. 障がい児保育実施園に対しての人的配置加算のお願い

保育園は早朝7時から最長午後7時まで(延長保育実施園)開所しており、各園では保護者の方の就労時間に合わせた保育を実施しているため、見守りや発達支援の必要な子どもが早朝から延長保育時間まで通園している場合もあり、安全を確保しながらの保育に困難を極めている園もあります。

現在は、加配児童2人に対して約4時間の人件費が加算されていますが、発達支援を必要としている子どもが各クラスに在籍しており、発達支援児のご家庭の多くが、長時間保育を必要としているため、現行の加算では人員確保が困難となっており、園独自の努力により人件費の予算を捻出しています。

この現状を踏まえ、発達支援の質の向上と安全な保育の確保のためにも、人件費の加算の拡充をお願い申し上げます。

5. 5歳児健診の実施実現化並び専門医の常駐へのお願い

何故5歳児での検診が必要かについては、脳科学者の見解によれば、4歳児から5歳児の年齢に前頭葉の発達が活発化して、運動分野では協調運動や行動抑制力が豊かになり、情緒、言語、認知、概念等について重要な変化が見られることが明らかになっています。これらは3歳児健診では見極めが難しく、就学前に適切な支援を講じるためにも、5歳児健診の実施は必要不可欠と考えます。

現在幼小連携として、ひとりひとりの子どもたちの発達をスムーズかつ丁寧に行う引継ぎも実施されていますが、発達支援を必要としている子どもを持つ保護者が育児相談や小学校教育への不安などが相談できる「支援パッケージ」として位置付ける必要があります。このことは、実施されている自治体もあるそうですので、苫小牧市も5歳児健診の実施を本格的に取り組んで頂きたいようお願い申し上げます。

また、健診の実施にあたり、小児神経科等の発達を専門に診療して頂ける医師の同席をしていただき、将来的には苫小牧市の病院及び発達支援センター等に専任の児童専門医及び発達心理士等の専門家を配置していただきたく、お願い申し上げます。